

ているが、ここに示すものは柄らしいものが全然見られない。高さ 5.7 粱傘面は濃暗褐色、癒着傘の部分に細かな皺がある。ヒダは上下とも白色、上部のヒダ中には淺く分岐せる不規則なものが認められる。○天上にヒダの出来る花シイタケ。高さ 3.6 粱、不規則な塊状で側面は纖維質、暗紫褐色、上方に裂目がある。上面は截断状をなし偏心状のヒダが發達し、白色である。○ノウタケ形の皺シイタケ。ヒダが全然退化變形したもので高さ 6.8 粱、柄は倒圓錐形、纖維質、淡黒褐色である。頭部は半球狀に膨れ、全表面に皺がある。その深さは中央部のものか深く、縁邊に至つて次第に淺く點状となる。又中央部の皺中には長い突起があり先端が淡焦褐色を呈し、その他は稍暗黒色である。この皺面の一部には子實層が見られ棍棒狀の側絲及び二本の擔子梗を具へた擔子基 ( $17 \times 5\mu$ ) がある。胞子は不整卵形で  $3.7-4 \times 2.5-3\mu$  である。普通のシイタケは擔子梗が 4 本であるのにこの畸形のシイタケは數が半減しているのは丁度野生のハラタケに對する栽培マッシュルームの如き關係に似て共通の理由があるよう思はれる。

### ○ 國内有効出版物に關する植物分類學會の申し合せ

Recommendations on future effective publications in Japan,  
accepted by the Society of Japanese Plant Taxonomists.

分類學の研究も永い戰時中及び戰後の停止狀態から漸く抜け出して昨今相當數の報告が發表されるようになりましたことは御同慶の至りです。かくて新しい名もたくさん現われましたのは當然であります。しかしそれに伴つて一二發表の型式や資格の點などで不完全なものや不用意のものが見當りますことは殘念に思います。研究とその發表とは自由でありましていささかも拘束されるものでないことは憲法の認めるところでありお互に尊重するところでありますが同時に國際間の約束に對する信用や義務についてもこれまた尊重すべきこと論をまたないのであります。新しい名の發表に對しまして國際間には學名の混亂を將來もなるべく無くして植物學本來の研究や植物學の應用の面での不利益を少くしたいといふ國際的な協同精神の立場から、國際植物命名規約が多くの分類學者の意見をもとにして作られ、しかも不備の點はたびたび改訂され、現在では廣く規準と見なされています。従つてこれに規定してあります色々の條件に合わない新しい學名の發表の仕方をすることは、この規約の運營を妨げる點からも、學名の國際性の本質のためにも、また日本の分類學界の國際的信賴と期待とを傷つける點からも、まことに遺憾なことがあります。切角研究された業績が傷つく點から研究者自身にとつてもまことに惜しいことと思われます。

わが植物分類學會はこうした不利益、過失、障害を今後とも未然に防ぎたいと念じて、さきに昭和 23 年には學名發表について善處する申し合せを行い、昨 24 年にはこのことを具體的に進めるため 5 人の委員會(委員伊藤洋、小林義雄、前川文夫、原寛及び津山尙の諸氏)を設けて將來への對策と過去の取り扱いとの 2 點について研究を進め、はじめ

の點について一應得られました結果を昭和25年11月4日の會合で討議修正の上で申し合せとして確認しました。

くりかえしますがこの申し合せは新しい學名を發表する場合の國際植物命名規約第36條にある有効出版 (Effective publication) に關するものであります、新學名を含まない論文や記事の出版や地方における雑誌の發行などについてはその自由を少しも束縛するものでない點を特にお斷りしておきます。

なおこの申し合せを實行する場合には狭い國內の問題としてばかりでなく、廣く國際的の見地から考えるべきであります、例えは他國において同様な出版物に新學名が發表された際に私共が彼つた不便と障害とを合わせ考える必要があります。

植物分類學會はまことに述べた様に國際的な見地から、今後は下記の様な出版物には一切新學名を發表しないようにすることを申し合せました。

(1) 通俗雑誌、一般科學雑誌及び一般的性質の單行本。

〔例〕 農耕と園藝、科學(岩波)、生物科學、基礎科學、資源植物事典、園藝大辭典、各種百科辭典。

(2) 植物學以外の専門雑誌及び原著研究論文を載せることを目的としない雑誌。

〔註〕 教職員の教育や科學知識の普及を主目的としている雑誌を含みます。

〔例〕 陸水學雑誌、採集と飼育、自然科學と博物館、大日本山林會報、植物園種子目録。

(3) 謄寫版、コンニヤク版などによる印刷物。

〔例〕 生物地理學會紀事、野草。

(4) 一般植物分類學關係者が容易に入手できない出版物。

〔註〕 地方的にかたよった會員だけに配布されるものや非賣品を含みます。

〔例〕 天然紀念物調査報告、兵庫生物、植物趣味、東北生物研究、各種校友會誌。

(5) 國外への配布の極めて少數なもの。

---

〔註〕 どんな出版物にでも新學名を説明上使用することは差し支えありませんがその新學名は有効な出版物に正式に發表されてからはじめて命名規約上正當なものと認められます。例えは「前原：南肥植物誌」は地方フロラの代表的著作として高く評價される出版物ですが、國内外への配布などを考へると新學名を發表するには不適當な出版物ですので、そこに含まれている新學名はそれが「植物分類地理」に再録された時にはじめて有効に出版されたものと見なします。

〔希望條項〕 なお植物分類學専門でない準定期出版物に新學名を發表した場合には、できるだけそれを周知させるような方法をとり、又別刷を國内外の主要研究所へ配布されることを希望します。

〔例〕 各大學紀要、各研究所報告、林學會雑誌、各演習林報告。